

現場訪問 ●ホンダモーターサイクリスト・スクール(HMS)体験会

二輪販売会社の社長・店長に バイクのスクールを体験していただく

3月7日、アクティブセー
フティトレーニングパークも
てぎ(栃木県茂木町)で、関
東・東北地区のホンダドリー
ムの社長および店長を対象に
したHMSの体験会が開催さ
れた。

ホンダドリームでは今年度
から、ドリームHMSをホン
ダの交通教育センター等7カ
所(もてぎ・埼玉・浜名湖・
鈴鹿・熊本・四国・菅生)で
展開する予定である。ホンダ
ドリームでバイクを購入した
お客様で、自動二輪免許を取
ったばかりの方や、運転に自
信のない方を対象とし、そう
したお客様に参加していただ
き、長く安全にバイクを利用
してもらうことが目的であ
る。これに先立ち、全国各地
でドリームHMSの教育プロ
グラムをホンダドリームの社
長および店長に体験していた
だく機会が設けられ、アクテ
イブセーフティトレーニング

大矢インストラクターが模範を示しながら、正しい運転姿勢のポイントを伝える



一人ひとりのブレーキングを見ながら適切なアドバイスを行う

※HMS (Honda モーターサイクリスト・スクール) =実技による参加体験型のバイクのスクール。Hondaの交通教育センターで開催されており、参加者のレベルに合わせて初級、中級、上級、オフロードなど様々なコースが用意されている。

パークもてぎには16名が参加した。体験する内容は、HMS初級コースで指導している「日常点検」「運転姿勢」「ブレーキング」「低速バランス」「スラローム」。指導を担当する大矢一也インストラクターは、HMSの特長を二輪販売会社からお客様にわかりやすく紹介してもらうために、各項目の実技に入る前に、その意義や必要性を参加者に説明した。

例えば、日常点検はバイクの故障が原因による事故を未然に防ぐために必要であることとを伝え、事故につながりやすいブレーキ、タイヤ、灯火類、燃料の4項目の点検方法を解説。また、ホンダドリームやコーススラロームの目的として、公道では練習しなくてもできない体験、経験を通じていく喜びを伝えていきたい」と語った。



写真上/一本橋による低速バランスのトレーニング
写真下/コーススラロームでは様々なコーナーを走行

教育最前線

●熊本市高等学校生活指導連盟・安全運転研修体験会

自転車や原付を利用する高校生への効果的な指導方法を伝える

2月10日、交通教育センター(熊本市)で熊本市高等学校生活指導連盟の安全運転研修体験会が開催された。同体験会には熊本市内の高校で生活指導を担当している先生方など43名が参加。

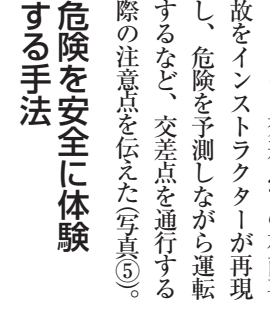
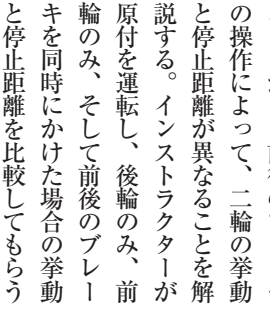
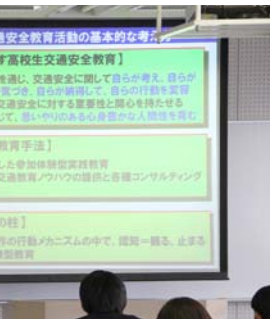
Hondaでは、平成24年度より熊本市内で高校生交通安全教育活動を展開する(左記「NEWS REVIEW」参照)。この活動は、交通安全に関して自らが考え、自らが発言し、自らが納得して、自らの行動を改善するとともに、交通安全に対する関心を高校生に持つてもらうことが目的である。実施プログラムは実技教育とともに、グループ討議を通じて、気づきや思いやりの心を養うことを目的とした感性教育を用意し、高校生へ

の新たな交通安全教育を熊本県から始め、将来的に全国へ展開していく考えだ。今回は先生方が生徒の立場になり、その教育プログラムの一部を体験していただいた。

「認知判断」操作の重要性を伝える
最初に体験するのは、自転車の実技教育。代表の先生数名に自転車や原付を運転してもらい、様々な体験をする。まず、見通しの悪い交差点を、徐行せずに通過してもらい、そして、通過する直前にインストラクターが自転車の前にボールを投げる。ボール

を認知してブレーキをかけても、すぐに停止できないことを体験する(写真①)。次は、自分が普段走っている速度でまっすぐ進み、インストラクターの旗の合図で指定された方向に回避して停止。合図を認知してから、正しい操作を判断するまでに時間がかかることを体験する(写真②)。

最後は、片手運転でのパイロンスラロームと一本橋。片手では不安定になり、正確な運転操作ができないことを理解してもらう(写真③)。



Hondaが熊本県内で展開する高校交通安全教育活動の目的や具体的な手法を先生方に説明



危険を安全に体験する手法
体験会に参加した熊本市高等学校生活指導連盟事務局の小山學理事長(熊本県高等学校)は「このような交通安全教育は新鮮に感じました。危険を安全に体験するという手法は、生徒の自覚を促す上で効果的です。今後、各校の安全指導にも活かせると思います」と感想を話す。

NEWS REVIEW

●熊本県高校生交通安全教育活動開始式 高校生の交通安全に対する自主自立による意識向上をめざす



開始式ではモデル推進校で展開される参加体験型の実践教育の内容(右記「教育最前線」参照)などが紹介された

Hondaでは、高校生を対象に生徒自らが主体性をもって事故防止を図ることを目的に、熊本県および熊本県警察本部、熊本県教育委員会との共催により、Hondaが提供する交通安全教育プログラムを使った交通安全教育活動を全国に先駆けて、平成24年度より熊本県内の14の高校でモデル的に実施する。

これに先立ち、3月15日、熊本県熊本市内のホテルにて「平成24年度熊本県高校生交通安全教育活動開始式」(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部)が開催された。熊本県内のモデル推進校の教諭および交通関係者36名が参加した。

式の冒頭では、千葉英雄・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長が「高校生一人ひとりが命の大切さや交通安全について主体的に考え、行動できる学習機会が必要です。将来的には高校生自身がインストラクターとなって校内活動を行い、自分の学校の安全は自分たちで守るという自主自立による意識向上を図ることをめざしています。モデル推進校の皆様と、道徳心のある交通社会人を育てるという志を共有しながら取り組んでいきたい」と抱負を述べた。

また、来賓を代表して木幡繁嗣・内閣府交通安全企画第2担当参事官補佐が挨拶。「この活動は交通事故防止の模範例の1つとして、熊本県から全国へ広がっていくことを内閣府としても期待しています」と語った。



木幡繁嗣・内閣府交通安全企画第2担当参事官補佐